革新的がん医療実用化研究事業
令和9年度日英共同公募　公募説明会（web）

令和8年11月４日

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）

はじめに

本資料はFunding Opportunity Guidance及び 日本側研究者向け補足応募注意事項からの抜粋で構成されています。

詳細は、Funding Opportunity Guidance及び日本側研究者向け補足応募注意事項を必ずご確認ください。

https://www.amed.go.jp/koubo/03005/02/B_00021.html

https://www.nihr.ac.uk/funding/uk-japan-collaborative-clinical-trials-children-and-young-peoples-cancer/97059

NIHRが主催するWebinarも11月17日に開催されますので、NIHRの公募ページよりご登録の上、ご参加ください。

https://zoom.us/webinar/register/WN_FDa1QZLGTW--SNFJzpCljQ#/registration

本日のスケジュール

1. **概要説明**
   事業概要、公募課題、応募に必要な書類・提出方法、
   応募書類作成上の注意、主なスケジュール

2. **ヒト全ゲノムシークエンス解析のプロトコール情報の提出について**

3. **公募概要**

4. **終わりに**

1．概要説明
「事業概要」

がん研究10か年戦略（第５次）の概要

令和５年12月25日大臣確認（内閣府、文部科学省、厚生労働省、経済産業省）

戦略目標

がん患者を含む全ての国民と協働した研究を総合的かつ計画的に推進することにより、「がん予防」、「がん医療」及び「がんとの共生」の各分野のより一層の充実を実現し、がん対策推進基本計画の全体目標（「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す」）を達成することを目指す。

今後のあるべき方向性

今後のがん対策の方向性を踏まえ、社会実装を意識したがん研究の取組を進めていく。がん研究全体として、長期的視点を持って研究成果を産み出すために、省庁連携のみならず、産官学が連携し、がん患者を含む全ての国民とともに、基礎研究、臨床研究、政策研究のそれぞれを戦略的かつ一体的に推進していく。

今後推進すべきがん研究・開発（具体的研究事項）

※赤枠内をAMEDで実施

（１）「がんの予防」に関する研究

（1-1）新たなリスク要因の同定やリスク層別化に基づく１次予防の推進

（1-2）高リスク層の同定や新たな早期発見手法の活用による２次予防の推進

（２）「がんの診断・治療」に関する研究

（2-1）個別化医療を更に推進する診断技術の開発

（2-2）新規薬剤・治療法の開発

（2-3）多様な患者ニーズに応じた新たな標準治療の確立

（３）「がんとの共生」に資する研究

（3-1）誰もがアクセス可能な相談支援・情報提供

（3-2）充実したサバイバーシップの実現

（４）ライフステージやがんの特性に着目した研究

（4-1）希少がん及び難治性がん

（4-2）小児がん及びAYA世代のがん

（4-3）高齢者のがん

（５）がんの予防、がんの診断・治療の開発、がんとの共生を促進するための分野横断的な研究

（5-1）がんの本態解明

（5-2）シース探索・育成

（5-3）バイオバンク・データベースの整備、連携強化及び利活用促進

（5-4）先端的な科学技術の活用や異分野融合

（5-5）政策的な課題の把握と解決

研究の効果的な推進のための環境整備

- ✓ **国際連携**　国際共同臨床試験の環境整備、海外データベースとの連携とその活用等
- ✓ **人材育成**　幅広い分野の知識を身に付けたがん研究に関わる人材の育成、若手・女性研究者や博士号取得者の活躍の場の拡大等
- ✓ **患者・市民参画**　他疾患や他領域の視点も広く交えた主体的な参画の推進等

事業体制

応募注意事項1.2

革新がん事業　事業体制

令和8年11月1日現在

疾患領域 がん

DC　**間野　博行**　国立がん研究センター 理事長

革新的がん医療実用化研究事業（厚生労働省）

PS
直江 知樹
名古屋医療センター
名誉院長

PO

赤堀 眞	（株）アイクロス
牛島 俊和	星薬科大学 学長
大津 敦	がん研究会 理事・研究本部 本部長 （一社）がん医療創生機構 理事長 国立がん研究センター東病院 名誉院長
佐伯 俊昭	埼玉医科大学国際医療センター 病院長
竹内 雅博	三井不動産（株） 参事
田中 純子	広島大学 理事・副学長
永田 靖	中国労災病院 部長
中山 啓子	量子科学技術研究開発機構 理事
福田 治彦	国立がん研究センター データ管理部長
古瀬 純司	神奈川県立がんセンター 総長
堀部 敬三	名古屋医療センター 上席研究員
光冨 徹哉	和泉市立総合医療センター 総長
吉田 輝彦	国立がん研究センター 医員
米田 悦啓	阪大微生物研究会 理事長
渡邊 雅之	がん研究会有明病院 病院長

Field1	がんの予防に関する研究
Field2	がんの診断・治療技術開発に関する研究
Field3	がんの新規薬剤・治療法の開発に関する研究
Field4	がんの標準治療の確立、ライフステージに応じたがん治療に関する研究
Field5	がんの克服を目指した分野横断的な研究

サポート機関（PRIMO）

がん・難病全ゲノム解析等実行プログラム（厚生労働省）

PO

米田 悦啓	阪大微生物研究会 理事長
吉田 輝彦	国立がん研究センター 医員

全ゲノム解析等実行計画の推進にかかる研究（がん領域）

サポート機関の設置について

応募注意事項1.2

- 本事業内には、独自のサポート機関が設置されており、各課題は支援を受けながら研究開発を推進していくことが前提となります。
- 必要な情報として、研究開発計画書、マイルストーンなどをサポート機関と共有し進捗管理に活用いたします。

サポート機関による支援内容

- 研究開発における高度で効率的な技術的支援・協力を目的とする共同研究等の橋渡し支援
- 技術的支援および専門的助言、及び他の相談支援事業への紹介
- 知的財産コンサルテーション
- 研究倫理コンサルテーション
- その他（薬事、臨床開発他）

1．概要説明
「公募課題」

公募研究開発課題一覧

応募注意事項2.1

#	公募研究開発課題
1	Japan–UK collaborative clinical trials on children and young people's (CYP) cancers

今回の公募は、AMEDと英国National Institute for Health and Care Research (NIHR)が共同で行い、日本チームと英国チームが連携して、一つの提案をご応募いただきます。

日本側研究者はe-Radへ、英国側研究者は英国のシステム（AMS）へ同一の提案書（Research Plan等）をそれぞれ提出していただく必要があるため、英国チームと緊密に連携を図ったうえで、ご提案ください。

e-Rad（日本側）のみ、またAMS（英国側）のみの応募は認められません。

※AMED公募ページ、e-Rad公募ページだけでなく、必ず英国NIHRの公募ページもご確認ください。

https://www.nihr.ac.uk/funding/uk-japan-collaborative-clinical-trials-children-and-young-peoples-cancer/97059

注意事項

- 応募に必要な書類は必ず「Funding Opportunity Guidance」及び「日本側研究者向け補足応募注意事項」でご確認ください。
- 研究開発費の上限額として応募注意事項に示されている額を超える額で応募された場合には、不受理となります。「日本側研究者向け補足応募注意事項」でご確認ください。
- 本公募で採択となった場合、日本側研究者にはAMEDから、英国側研究者にはNIHRから研究開発費が支給されます。
- AMEDの研究開発費の上限額は、年度ごとで決まっており、研究期間全体の上限額でないことをご留意ください。

１．概要説明
「応募に必要な書類・提出方法」

応募に必要な書類

Funding Opportunity Guidance
及び応募注意事項4.1～　他

応募の際は、以下の書類を提出してください。

全応募者必須

1．英国側に提出する書類一式（英語）（スライド18）

※ 必ずNIHRのホームページもご確認のうえ、本公募の応募に必要な以下の書類を英国チームと連携して作成して、提出してください。

①Research Plan

②Gantt Chart

③Reference

④日本側研究者情報（Flexible upload）

英国のシステム(AMS)とe-Radの両方に、同じ書類をご提出していただく必要があります。

2.【様式1】補足資料（日本語、日本側研究者のみ）（スライド19-25）

※ AMED公募HPから雛型および記載要領をダウンロードして、ご参照ください。
【様式1_記載要領】を参照の上、作成してください。

3.【様式2】ロードマップ（日本語、日本側研究者のみ）（スライド26）

※ AMED公募HPから雛型および記載要領をダウンロードして、ご参照ください。
自由様式を用いる場合も、【様式2_記載要領】の留意事項を踏まえて作成してください。

応募に必要な書類



応募注意事項4.1～　他

該当する場合に提出

4．ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式（日本語、日本側研究者のみ）
（スライド27）
日本側研究者がヒト全ゲノムシークエンス解析又はヒト全エクソーム解析を実施する場合には必須

5．財務状況資料（日本語、日本側研究者のみ）
日本側研究開発代表者の所属機関がスタートアップ企業等の場合は必須

※ 4はAMED公募HPから様式をダウンロードしてください。
5の詳細は応募注意事項をご確認ください。

応募書類の提出

応募注意事項II-第1章　他

- 応募書類は全てPDF化した後に、e-Radに提出をお願いします。
- AMED公募HPに掲載されている「e-Rad入力にあたってのポイント（革新的がん医療実用化研究事業）」を参照してください。

主な注意点

① 提出期限（令和9年2月17日（水）17:00）厳守

期限内に提出（e-Rad登録）が完了しないと応募を受理できません。余裕のある登録をお願いします。
なお英語資料は英国チームに英国の評価システム（AMS)にも登録してもらう必要があります。
e-RadとAMSへの提出締め切りは時差がございますので、ご注意ください。

② 書類提出先（e-Rad登録の入り口）

並行して行っております令和9年度革新的がん医療実用化研究事業公募とe-Rad登録の入り口が異なります。
公募研究開発課題名が間違いないことを確認してください。

③ 必要書類の確認

e-Radで【必須】と表示されているファイルをアップロードしないと登録は完了しません。
e-Radにアップロード可能な書類の数には限りがあるため、一部のサブ項目では、書類をまとめてZIP圧縮してアップロードする必要の生じる場合があります。圧縮ファイル内に全てのファイルが含まれていることを十分ご確認ください。

④ 事務担当者との事前相談

研究開発代表者による登録後に所属研究機関による承認が必要となります。研究機関の事務担当者と事前にご相談ください。 提出期限（2月17日17:00）までに、e-Radのステータス表示が『応募中/申請中/配分機関処理中』となることが必要です。e-Radの画面上でステータス表示を確認し、応募が完了していることを確認してください。

e-Radに関する注意・お願い

➢ e-Rad研究者情報の事前更新

研究の健全性・公正性（研究インテグリティ）に関する誓約の入力が必要です。
日本側研究開発代表者及び日本側研究開発分担者全員の研究者情報の更新をお願いします。

手順：
① e-Radにログイン
② トップページ右上の氏名をクリックし「研究者情報の確認・修正」をクリック
③ 「所属研究機関」タブを選択
④ 最下部の「e-Rad外の研究費の状況および役職と所属機関への届け状況」(3)誓約状況【報告している】にチェック
⑤ 最下行「この内容で登録」をクリック ⇨ e-Rad研究者情報の更新完了

➢ 早めの提出完了（e-Rad不具合回避のため）

公募〆切直前はe-Radアクセス集中のため不具合が発生する場合があります。
〆切直前を避け、余裕のある提出をお願いします。

ご注意ください

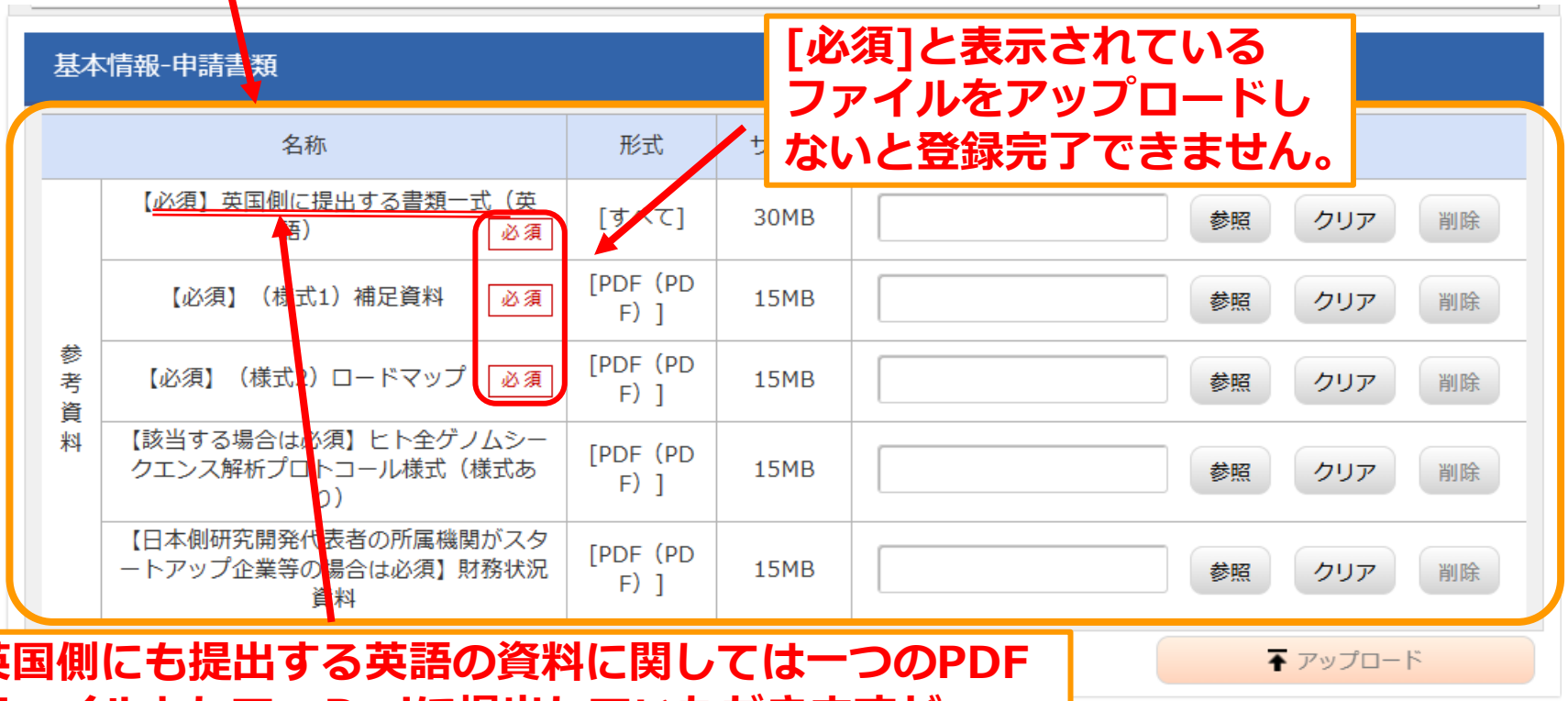
研究開発代表者が必要な情報をすべて入力すると、最後に**「研究インテグリティに関する誓約」へのチェック**が求められます。
この操作を終えると申請完了となりますが、ここでe-Radのレスポンスが悪くなり、**タイムアウトで申請が完了しない**場合があります。
不測の事態に備え、**日数に余裕を持った申請と機関承認**をお願いします。

※ e-Radの不具合に関する情報や、システム上の不具合が解消されない場合の特別対応などについては、公募HPに掲載されますので、随時確認してください。

e-Radでの応募書類の提出

提出書類については、「Funding Opportunity Guidance 」(英語)と「日本側研究者向け補足応募注意事項」(日本語)を必ずご確認ください。

[必須]と表示されているファイルをアップロードしないと登録完了できません。



英国側にも提出する英語の資料に関してはひとつのPDFファイルとしてe-Radに提出していただきますが、30MBを超える場合は、ZIP圧縮してご提出ください。

※英国側に提出する書類（ 「Funding Opportunity Guidance 」を参照）

- **Detailed research plan**
- **Gantt chart**
- **References**
- **Flexible upload（日本側チーム情報）**

１．概要説明
「応募書類作成上の注意」

英国側に提出する書類一式

全応募者必須

※英国側研究チームと連携して、同一の書類を作成いただく必要があります。
※詳細は「Funding Opportunity Guidance」及びNIHRの公募ページをご確認ください。

Detailed research plan

The detailed research plan is the main part of your application. Please write a maximum of 20 A4 pages for your detailed research plan (Arial size 12 font) and PDF the document before uploading it to preserve its length and format.

Gantt chart of project management plan (mandatory)

Upload a Gantt chart outlining key milestones, activities and deliverables that will be completed throughout the duration of the award.

References (mandatory)

Upload 1 single-side A4 page of references as a PDF document. Please use Arial size 12 font.

Flexible upload (mandatory)

Upload a PDF which lists:

- the names, affiliations, roles and responsibilities, % FTE time commitment and ORCID reference for the Japan-based lead applicant and co-applicants
- the research costs being requested from AMED for the Japan-based component of the research proposal

Please check you have also uploaded a PDF of the detailed research plan (no more than 20 A4 pages Arial size 12 font).

作成した書類一式は、日本側研究者がe-Radに、英国側研究者がAMSにそれぞれアップロードする必要があります。
どちらか一方の応募は認められませんので、英国側研究チームと緊密な連携を図ってください。

【様式1】補足資料　全応募者必須

表紙

※日本側研究者で作成してください

（様式 1）

日本医療研究開発機構　革新的がん医療実用化研究事業
日英共同公募補足資料

研究開発課題名（英語表記）	英語表記	Study of ○○
募名（事業名）		Japan-UK collaborative clinical trials on children and young people's (CYP) cancers □公募要領（英語版）と補足応募注意事項第 2 章 2.3 を参照し、上記に対応する公募の内容を十分確認した。 ※確認したら□
研究開発期間（本提案における全研究期間）		令和 XX 年 X 月 X 日　～　令和 XX 年 X
日本側研究費総額（直接経費）		全研究期間での総額（　X0,000 千円） ※「5.各年度別経費内訳」の全研究期間の研究開発費合計
ヒト全ゲノムシークエンス解析及びヒト全エクソーム解析		□実施する　□実施しない ※いずれかに□、実施する場合、ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式を提出。
日本側研究開発代表者	氏名	フリガナ　○○○○　○○○○
		漢字　○○　○○
		ローマ字表記　Yyyy Yy
	性別	□男、□
	生年月（年齢）	19XX 年
	所属機関（正式名称）	○○法人
	所属部署（部局）	○○学部
	役職	○○
	通知書等送付先住所	〒○○
	電話番号	○○
	E-Mail	○○
	研究開発代表者の情報	https://www.……
日本側研究開発代表者の研究歴（主な職歴と研究内容）		

研究開発課題名は e-Radの記載と一致させてください。

研究開発費の上限額を超えないようにご注意ください。

ヒト全ゲノムシークエンス解析又はヒト全エクソーム解析を実施する場合は、「実施する」にチェックしてください。
実施する場合、ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式を提出ください。

【様式1】補足資料

全応募者必須

1．日本側研究体制

※日本側研究者で作成してください

1. 日本側研究体制

(1)研究協力体制について(~~下記の体制が整備されている際には、詳細を記載~~してください)

・(1－1)生物統計家の関与については、医師主導治験(臨床試験)を計画している研究の場合、必ず記載してください。

・チェック欄「□」は、該当する箇所を「■」にしてください。

(1－1)生物統計家の関与

a. 生物統計家の関与

■有(詳細:研究協力者 大手町大学・生物統計学教室教授 英目戸 恵子)

(主な関与:■研究企画立案(データ取得前)から □統計処理(データ取得後)のみ □その他)

(主な関与でその他を選択した場合、詳細:)

□無／検討中

(理由:)

b. 生

上記「

①関与

○○○

【様式1】補足資料　全応募者必須

3. 日本側研究開発代表者及び日本側研究開発分担者に関する情報

※日本側研究者で作成してください

3. 日本側研究開発代表者及び日本側研究開発分担者に関する情報

	氏名	所属機関※1	現在の専門		
	生年月（年齢：令和9年4月1日時点）	所属部署（部局）※1	学位（最終学歴） 学位取得年		
	e-Rad 研究者番号※3	役職※1	役割分担		
日本側研究開発代表者	○○ ○○	○○○○大学	△△△		
	S49/11(XX)	△△△学部△△△学科	△△博士(○○大学) H14 年		
		△△△	研究の統括		
		(主たる研究場所)※1 △□大学 △△△学部△△△学科 □□□			
日本側研究開発分担者	□□ ○○	△□大学	□○□		
	S50/11(XX)	△△△学部△△△学科			
		□□□			
		(主たる研究場所)※1 △□大学 △△△学部△△△学科 □□□			
計　名			研究開発経費合計	X,XXX	

英国側研究者は研究開発代表者及び分担者に記載しないでください。**日本側研究者情報のみご記載ください。**

所属機関と主たる研究場所が異なる場合は、**主たる研究場所**についても記載してください。

e-Radの情報と一致させてください。

【様式1】補足資料

全応募者必須

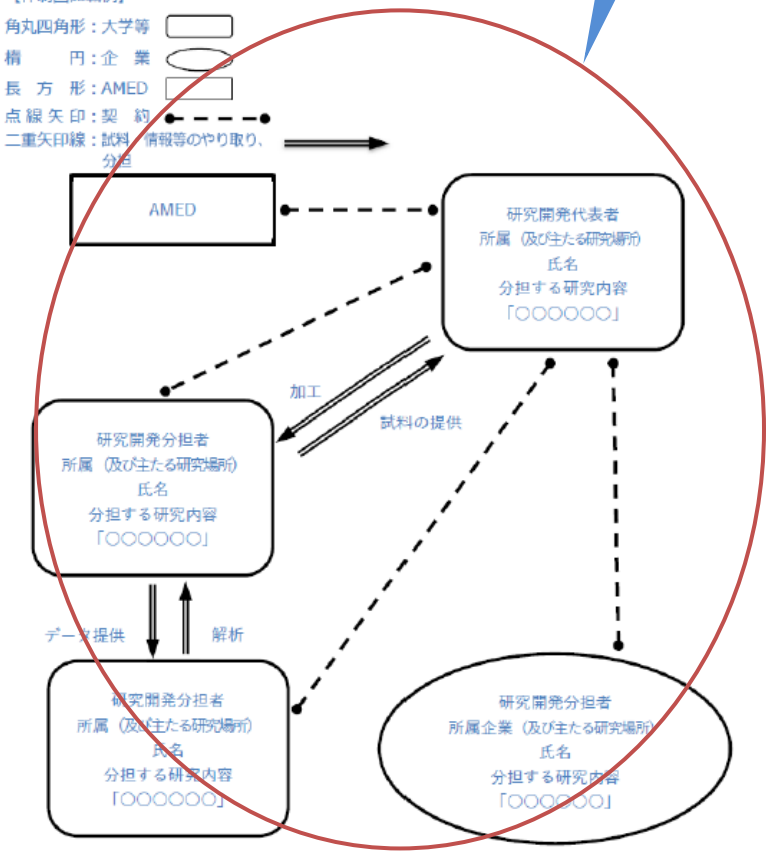
4. 実施体制図

※日本側研究者で作成してください

4. 実施体制図(英国チームも含めてご記載ください)

■代表研究機関、分担研究機関の組織(所属機関
ては、主たる研究場所についても記載)、体制、
載してください。各機関の役割がわかるように
の運営・推進及び進捗管理等の体制や方法に
■下記の図は例示として画像データで貼り付け
のうえ、適切なソフトで作られた体制図を下に

実施体制図には、日本側研究チームの体制だけでなく、英国側研究チームの体制も含めてください。



【様式1】補足資料　全応募者必須

5. 各年度別経費内訳

※日本側研究者で作成してください

5. 各年度別経費内訳（日本側のみの情報で構いません）

（1）日本側委託研究開発費

・研究開発費（代表研究機関及び全分担研究機関について合算）の内訳を記入してください。

・間接経費は直接経費の 30%以下としてください。

（単位：千円）

4.その他	外 注 費※2				
	そ の 他				
直接経費 小計					
間接経費（直接経費小計の 30%以内）					
計上額 総計					

直接経費小計は申請する公募の年間上限額を超えないようにしてください。
日本側研究者が使用するAMED研究費を円で記載してください。NIHR側の予算の記載は不要です。
年度ごとの上限額が決まっております。

※1 研究力向上のための制度（PI 人件費）の利用を希望する場合は、以下の条件を満たしていることを確認の上、以下の項目を記載ください。（希望しない場合は、記載不要です。）

① 直接経費に PI の人件費（の一部）を計上することについて、PI 本人が希望していること。

② PI が所属する研究機関において、確保した財源を研究力向上のために適切に執行する体制が整備されていること。

③ PI が所属する研究機関において、研究の業績評価が処遇へ反映されるなどの人事給与マネジメントを実施していること。

研究力向上のための制度（PI 人件費）とは？：https://www.amed.go.jp/keiri/youshiki

対象者氏名（この研究でのエフォート率、申請額）：○○○○（○%、約○○千円/年）

期待される効果：○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

PI人件費の利用を希望する場合は、提案時の記載が必須です。

（2）研究機関別経費

（間接経費を含めた金額を記入してください。）

・研究機関ごとの各年度の合計額を記入してください。

・分担研究機関が4機関以上ある場合は、行を追加してください。

（単位：千円）

種別	機関名	R9 年度	R10 年度	R11 年度	計
代表研究機関					
分担研究機関1					
分担研究機関2					
分担研究機関3					
研究開発費合計額					

（3）直接経費の具体的な内訳や使用目的

「（1）委託研究開発費」の各項目の主な経費について、支出計画を具体的にお示しください。

特に（2.旅費）、（4.その他）については、「2 研究計画・方法」との関係や必要性がわかるように記載してください。

（例）・研究開発項目①の○○研究における△△に用いる□□の購入：●●千円

・研究開発項目②の CRO への

・R9年度○○学会における

（米国サウスダコタ））：●

（1. 物品費）

（2. 旅費）

（3. 人件費・謝金）

研究計画における必要性がわかるように、具体的に記入してください。

【様式1】補足資料　全応募者必須

7. 研究費の応募・受け入れ等の状況・エフォート

※日本側研究者で作成してください

7. 研究費の応募・受入等の状況・エフォート（日本側のみの情報で構いません）

■本研究開発課題の研究開発代表者の応募時点における、(1)応募中の研究費（国内外を問わず、競争的研究費のほか、民間財団からの助成金、企業からの受託研究費や共同研究費等の研究資金を含む。以下同じ。）、(2)採択されている研究費（実施中の研究費・実施予定の研究費）、(3)その他の活動について、次の点に留意し記載してください。なお、複数の研究費を記載する場合は、線を引いて区別して記載してください。

■[illegible]

■[illegible]

エフォートは、その他の活動（診療や教育など）を勘案して記載してください。

【日本側研究開発代表者】

(1)応募中の研究費（令和　年　月　日時点）

(1-1)応募中の研究費　AMED 研究費

資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名）	研究開発課題名（研究開発代表者氏名）	役割（代表・分担の別）	令和9年度の研究経費（直接経費）[間接経費]（千円）	エフォート（%）	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究開発課題に応募する理由
			000* 3,000]		

＊（　）内には、研究開発期間全体の直接経費の総額を記載してください。

AMEDとそれ以外に分けて記載してください。

(1-2)応募中の研究費　AMED 以外の研究費

資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名）	研究開発課題名（研究開発代表者氏名）	役割（代表・分担の別）	令和9年度の研究経費（直接経費）[間接経費]（千円）	エフォート（%）	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究開発課題に応募する理由
科学研究費補助金・基盤研究 B(R9～R11・日本学術振興会)	○○と△△に関する研究（○○○○）	代表	10,000* [30,000]	20	本研究とは▲▲の視点から調査する意味で異なり、本応募研究により統合的に理解が進むため。 （総額　36,000 千円）*
科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究（R9～R10・日本学術振興会）	○○と△△の□□への依存性に関する調査研究（○○○○）	代表	3,000 [9,000]	10	本研究とは▲▲の視点から調査する意味で異なり、本応募研究により統合的に理解が進むため。 （総額　9,000 千円）*
令和９年度○○財団研究助成金（R9・○○財団）	●●と□□の研究（○○○○）	分担	1,000 [1,000]	5	本研究とは▲▲の視点から調査する意味で異なり、本応募研究により統合的に理解が進むため。

＊（　）内には、研究開発期間全体の直接経費の総額を記載してください。

(2)採択されている研究費（実施中の研究費・実施予定の研究費）（令和　年　月　日時点）

(2-1)採択されている研究費（実施中の研究費・実施予定の研究費）　AMED 研究費

（注：本研究開発課題の研究開始年度前に終了する研究費は含みません。）

資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名）	研究開発課題名（研究開発代表者氏名）	役割（代表・分担の別）	令和9年度の研究経費（直接経費）[間接経費]（千円）	エフォート（%）	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究開発課題に応募する理由
					理由 （総額　○○千円）*

＊（　）内には、研究開発期間全体の直接経費の総額を記載してください。

応募中や受入予定の研究費について、本提案との相違点をご説明ください。
研究費の不合理な重複及び過度の集中の排除の観点から重要になります。

(2-2)採択されている研究費（実施中の研究費・実施予定の研究費）　AMED 以外の研究費

（注：本研究開発課題の研究開始年度前に終了する研究費は含みません。）

資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名）	研究開発課題名（研究開発代表者氏名）	役割（代表・分担の別）	令和9年度の研究経費（直接経費）[間接経費]（千円）	エフォート（%）	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究開発課題に応募する理由
					（総額　5,000 千円）*

日本側研究開発分担者についても、日本側研究開発代表者と同様に記載してください。

【様式1】補足資料　全応募者必須

8. これまでに受けた研究費とその成果等

※日本側研究者で作成してください

8. これまでに受けた研究費とその成果等

■本欄には、研究開発代表者及び研究開発分担者がこれまでに受けた研究費（所属機関より措置された研究費、府省・地方公共団体・研究助成法人・民間企業等からの研究費等。なお、現在受け入れている研究費も含む。）による研究成果等のうち、本研究の立案に生かされているものを選定し、（1）【AMED 事業】と（2）【それ以外の研究費】に分けて、次の点に留意し記載してください。
■AMED 事業とそれ以外の研究費は区別して記載してください。
■それぞれの研究費ごとに、資金制度名、期間（年度）、課題名、代表者又は分担者の別、研究経費（直接経費）を記載してください。また、研究成果及び中間・事後評価（当該研究費の代表者のみ。）結果も簡潔に記載してください。

（記載項目）
資金制度名:
期間（年度）:R　年度～R　年度
課題名:
代表者又は分担者の別:
研究経費（直接経費）:　　千円
研究成果及び中間・事後評価結果:

（1）【日本側研究開発代表者】AMED 事業
・AMED　○○事業（A）、H27～H29、「○○に関する研究」、代表者、40,000 千円
　××××の成果を得た。

・AMED　○○事業（B）、H29～R1、「○○に関する研究」、代表者、40,000 千円
　××××の成果を得た。

【日本側研究開発分担者】AMED 事業

（2）【日本側研究開発代表者】それ以外の研究費
・基盤研究（B）、H26～H28、「○○に関する研究」、代表者、40,000 千円
　××××の成果を得た。

【日本側研究開発分担者】それ以外の研究費

過去5年度内に受けた研究費のうち、本研究の立案に関わるものを選定し、記載してください。

【様式2】ロードマップ　全応募者必須

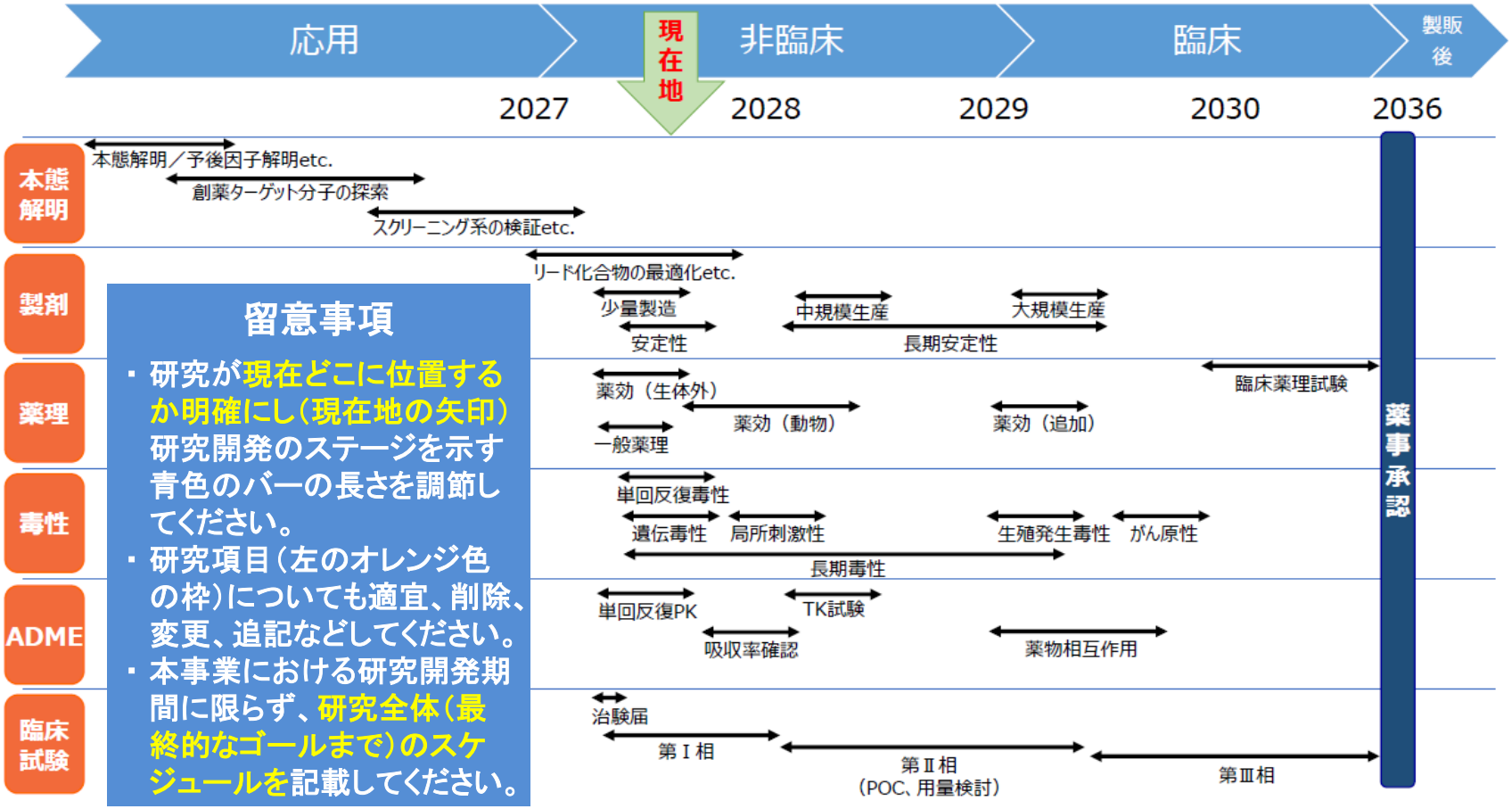
※日本側研究者で作成してください

【様式2】

研究開発代表者名を記載してください

応用～非臨床～臨床～実用化のロードマップ（イメージ）

研究開発代表者氏名：英目度　太郎



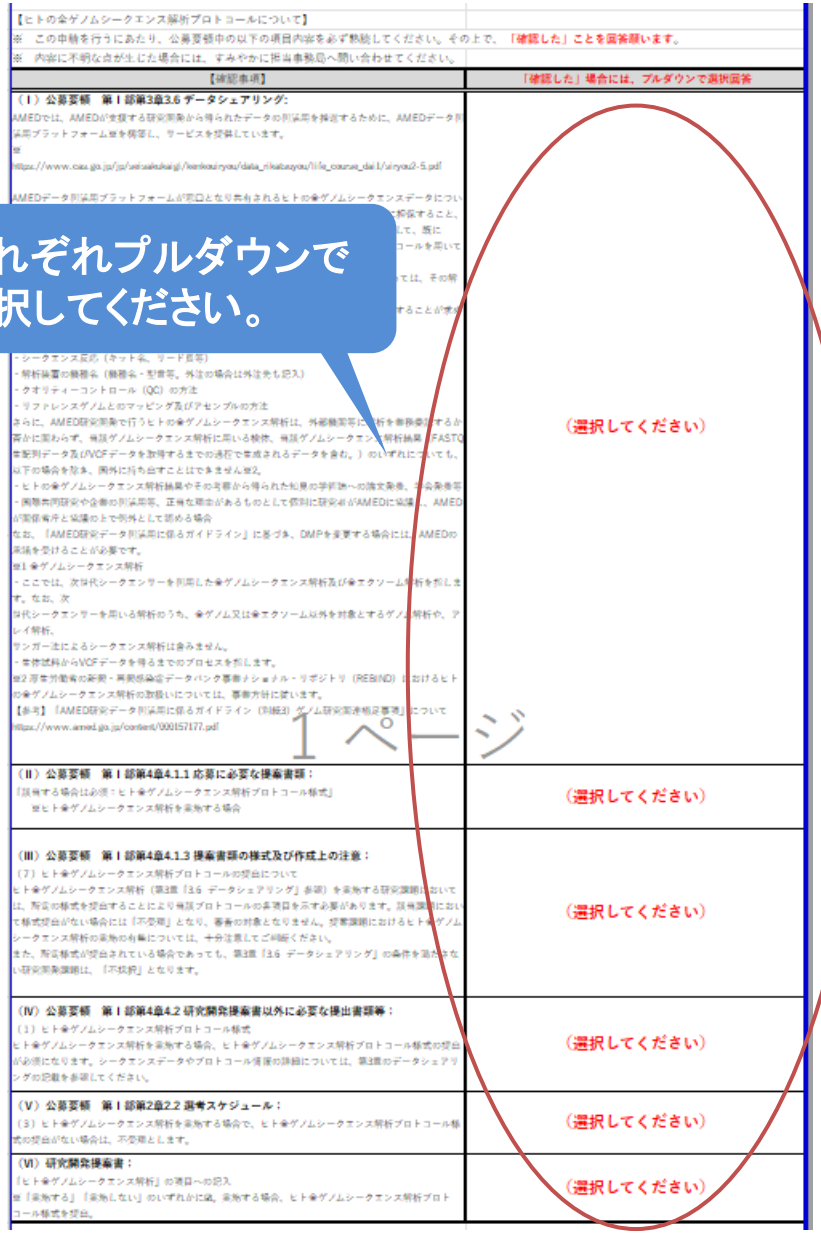
留意事項

- 研究が現在どこに位置するか明確にし（現在地の矢印）研究開発のステージを示す青色のバーの長さを調節してください。
- 研究項目（左のオレンジ色の枠）についても適宜、削除、変更、追記などしてください。
- 本事業における研究開発期間に限らず、研究全体（最終的なゴールまで）のスケジュールを記載してください。

ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式　該当者は必須

AMED

※日本側研究者で作成してください



【ヒトの全ゲノムシークエンス解析プロトコールについて】
※　この申請を行うにあたり、公募要領中の以下の項目内容を必ず熟読してください。その上で、「確認した」ことを回答願います。
※　内容に不明な点が生じた場合には、すみやかに担当事務局へ問い合わせてください。

【確認事項】	「確認した」場合には、プルダウンで選択回答
（Ⅰ）公募要領　第Ⅰ部第3章3.6 データシェアリング: AMEDでは、AMEDが支援する研究開発から得られたデータの利活用を推進するために、AMEDデータ利活用プラットフォーム並を構築し、サービスを提供しています。 ※ https://www.cas.go.jp/jp/seisakukaigi/kenkouiryou/data_rikatsuyou/life_course_dai1/siryou2-5.pdf AMEDデータ利活用プラットフォームが窓口となり共有されるヒトの全ゲノムシークエンスデータについ …提供すること、 …して、既に …ロールを用いて …ては、その解 …することが求め ・シークエンス反応（キット名、リード長等） ・解析装置の機種名（機種名・型番等。外注の場合は外注先も記入） ・クオリティーコントロール（QC）の方法 ・リファレンスゲノムとのマッピング及びアセンブルの方法 さらに、AMED研究開発で行うヒトの全ゲノムシークエンス解析は、外部機関等に解析を業務委託するか否かに関わらず、当該ゲノムシークエンス解析に用いる検体、当該ゲノムシークエンス解析結果（FASTQ 塩配列データ及びVCFデータを取得するまでの過程で生成されるデータを含む。）のいずれについても、以下の場合を除き、国外に持ち出すことはできません※2。 ・ヒトの全ゲノムシークエンス解析結果やその考察から得られた知見の学術誌への論文発表、学会発表等 ・国際共同研究や企業の利活用等、正当な理由があるものとして個別に研究者がAMEDに協議し、AMEDが関係省庁と協議の上で例外として認める場合 なお、「AMED研究データ利活用に係るガイドライン」に基づき、DMPを変更する場合には、AMEDの承諾を受けることが必要です。 ※1 全ゲノムシークエンス解析 ・ここでは、次世代シークエンサーを利用した全ゲノムシークエンス解析及び全エクソーム解析を指します。なお、次 世代シークエンサーを用いる解析のうち、全ゲノム又は全エクソーム以外を対象とするゲノム解析や、アレイ解析、 サンガー法によるシークエンス解析は含みません。 ・生体試料からVCFデータを得るまでのプロセスを指します。 ※2 厚生労働省の新興・再興感染症データバンク事業ナショナル・リポジトリ（REBIND）におけるヒトの全ゲノムシークエンス解析の取扱いについては、事業方針に従います。 【参考】「AMED研究データ利活用に係るガイドライン（別紙3）ゲノム研究関連相足事項」について https://www.amed.go.jp/content/000157177.pdf	（選択してください）
（Ⅱ）公募要領　第Ⅰ部第4章4.1.1 応募に必要な提案書類： 「該当する場合は必須：ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式」 ※ヒト全ゲノムシークエンス解析を実施する場合	（選択してください）
（Ⅲ）公募要領　第Ⅰ部第4章4.1.3 提案書類の様式及び作成上の注意： （7）ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコールの提出について ヒト全ゲノムシークエンス解析（第3章「3.6 データシェアリング」参照）を実施する研究課題においては、所定の様式を提出することにより当該プロトコールの共通項目を示す必要があります。該当課題において様式提出がない場合には「不受理」となり、審査の対象となりません。提案課題におけるヒト全ゲノムシークエンス解析の実施の有無については、十分注意してご判断ください。 また、所定様式が提出されている場合であっても、第3章「3.6 データシェアリング」の条件を満たさない研究開発課題は、「不採択」となります。	（選択してください）
（Ⅳ）公募要領　第Ⅰ部第4章4.2 研究開発提案書以外に必要な提出書類等： （1）ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式 ヒト全ゲノムシークエンス解析を実施する場合、ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式の提出が必須になります。シークエンスデータやプロトコール情報の詳細については、第3章のデータシェアリングの記載を参照してください。	（選択してください）
（Ⅴ）公募要領　第Ⅰ部第2章2.2 選考スケジュール： （3）ヒト全ゲノムシークエンス解析を実施する場合で、ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式の提出がない場合は、不受理とします。	（選択してください）
（Ⅵ）研究開発提案書： 「ヒト全ゲノムシークエンス解析」の項目への記入 ※「実施する」「実施しない」のいずれかに従、実施する場合、ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式を提出。	（選択してください）

1ページ

それぞれプルダウンで選択してください。

【設問】	【回答】
事業名	
研究開発課題名	
研究開発代表者名	
ヒト全ゲノムシークエンス解析（全エクソーム解析を含む）を実施するか（はい・いいえ）	
ライブラリー作成（キット名、断片長等）	
シークエンス反応（キット名、リード長等）	
シークエンサーの機種名（機種名・型番等）。なお、外注の場合は外注先も記入	
クオリティコントロールQCの方法	
リファレンスゲノムとマッピング及びアセンブルの方法	

すべての設問に対して回答を記入してください。

日本側研究者が**ヒト全ゲノムシークエンス解析及びヒト全エクソーム解析**を実施する場合、**必ず提出**してください。
詳細は公募要領（第３章3.6）を参照してください。

1．概要説明
「主なスケジュール」

公募～研究開始までの主なスケジュール


公募要領 2.2

提案書類受付期間	令和8年10月28日（水） **～令和9年2月17日（水）17:00（厳守）**
書面審査	令和9年3月上旬 ～令和9年5月上旬（予定）
ヒアリング審査	本公募では原則ヒアリング審査は予定しておりません。ただし、2月～3月に応募者に（日本と英国の共同チームに英国側から）質問が届く可能性がございます。その際は、ご対応をお願いいたします。
採択可否の通知	令和9年9月（予定）
研究開発開始 （契約締結日）	令和9年12月（予定）

2. ヒト全ゲノムシークエンス解析のプロトコール情報の提出について

■ AMEDは、政府の方針に基づき、様々なAMED研究課題で得られたヒト全ゲノムシークエンスデータをとりまとめて大規模なデータセットをつくり、研究開発に提供する基盤「AMEDデータ利活用プラットフォーム」の整備を進めています。

■ 全ゲノムシークエンスデータの大規模解析には、個別のデータの解析プロトコールが揃っていることが、解析結果の精度に直接影響します。そのため、AMEDは、国費を投じて得られたデータを利活用した研究開発において精度の高い解析が可能となるよう、 このプラットフォームが窓口となり共有されるヒトの全ゲノムシークエンスデータには、政府の方針※に基づき以下の2点を求めています。

① 既にプラットフォームで共有予定となっているデータと品質を同等に担保すること

② ゲノム解析の先進諸国との国際共同研究でも円滑に活用可能であること

※厚生労働省　第２回「全ゲノム解析等実行計画」の推進に向けた検討会議（令和３年２月１６日、資料1）
　内閣官房健康・医療推進戦略本部　第８回ゲノム医療協議会（令和４年３月３０日、資料3、参考資料3）

■ 既にこのプラットフォームで共有予定となっているヒト全ゲノムシーケンスデータとは、現時点では、内閣官房健康・医療推進戦略本部の第５回ゲノム医療協議会（令和３年３月16日）参考資料3で示されたデータのことです。

■ ゲノム解析の先進諸国との国際共同研究とは、現時点では、英国のUK BiobankおよびGenomics Englandや、米国のAll Of Usなどの海外の大規模ゲノムデータリソースを用い、ゲノム医療研究で先行する欧米の研究機関と共同して実施するような研究を想定しています。

■ AMEDは、この目的を達成するため、全ゲノムシークエンスの解析プロトコールが公募要領の「３．６ データシェアリング」に記載されている以下の**5つの要件**を満たしているか確認しています。

- ライブラリー作成（キット名、断片長等）
- シークエンス反応（キット名、リード長等）
- 解析装置の機種名（機種名・型番等。外注の場合は外注先も記入）
- クオリティーコントロール（QC）の方法
- リファレンスゲノムとのマッピング及びアセンブルの方法

※ 全ゲノムシークエンス解析
次世代シークエンサーを利用した全ゲノムシークエンス解析及び全エクソーム解析を指します。なお、次世代シークエンサーを用いる解析のうち、全ゲノムまたは全エクソーム以外を対象とするゲノム解析や、アレイ解析、サンガー法によるシークエンス解析は含みません。

■ ヒト全ゲノムシークエンス解析を実施する研究課題は、所定の様式※ を提出することにより、解析プロトコールの各項目を示す必要があります。様式が提出されていない場合には応募申請は「不受理」となり、審査の対象となりませんので、提案課題におけるヒト全ゲノムシークエンス解析の実施の有無については十分に注意してご判断ください。

※ ヒト全ゲノムシークエンス解析プロトコール様式

3. 公募概要

UK-Japan collaborative clinical trials on children and young people's (CYP) cancers

Study design

To address the rarity of cancers among children and young people, this joint funding opportunity supports clinical trials at Phase IIb or Phase III. Phase IIb trial designs are welcomed where they are likely to serve as the definitive trial leading directly to a change in clinical practice, with no requirement for an onward Phase III trial due to the small patient population. Consequently, health economic evaluations are expected for all Phase III proposals, and are permitted and expected for definitive Phase IIb trials. Randomised study designs are encouraged.

Eligibility

Our aim is to fund up to 2 collaborative UK- Japan projects and achieve equity in the balance of country leadership. To achieve this, ideally 1 funded award would have a UK Principal Investigator and 1 a Japanese Principal Investigator. The equitable distribution of project roles and responsibilities between UK and Japan collaborators must be clearly described and justified in the application to demonstrate that there is an appropriate balance. At the point of funding, selected awards may be required to adjust, where feasible, to ensure that this equity has been achieved.

※詳細は「Funding Opportunity Guidance」及びNIHRの公募ページをご確認ください。

4. 終わりに

公募に関するお問合せ

- 提案内容そのものに関するご相談、ご質問にはお答えできません。

- 今後、ご疑問、ご質問等ありましたら、下記宛先にメールにてお問合せください。

  日英共同公募に関する質問の場合は、件名に「日英」の記載をお願いします。

  （記載例） 件名：【令和9年度公募 質問】日英についての質問

  全体に関する質問の場合は、以下のような件名の記載をお願いします。

  （記載例） 件名：【令和9年度公募 質問】全体についての質問

  宛先：日本医療研究開発機構
  革新的がん医療実用化研究事業　公募担当

kakushingan@amed.go.jp
か く し ん が ん